

⑤ コンスタンチン・ヴァポリス 著
小島康敬、M.ウィリアム・スティール 監訳
『日本人と参勤交代』

(柏書房)

米国の日本研究者が徳川政権の支柱である参勤交代というシステムを新たな視点で考察した学術書。藩主から藩士に至るまでが地方と江戸を行き来することで相互交流を果たし、各々の文化を豊かにしたことや、本来軍事行動である参勤交代が、泰平の世においては次第にパレードとしての性格を強め、藩主の権威を誇示する舞台となり、大名行列が年中行事の一つとして庶民の間で人気を高めていった経緯が丹念に調べられ、従来の制度的研究の枠組みを超えて楽しむことができます。

210.5-Vap (A.U.)

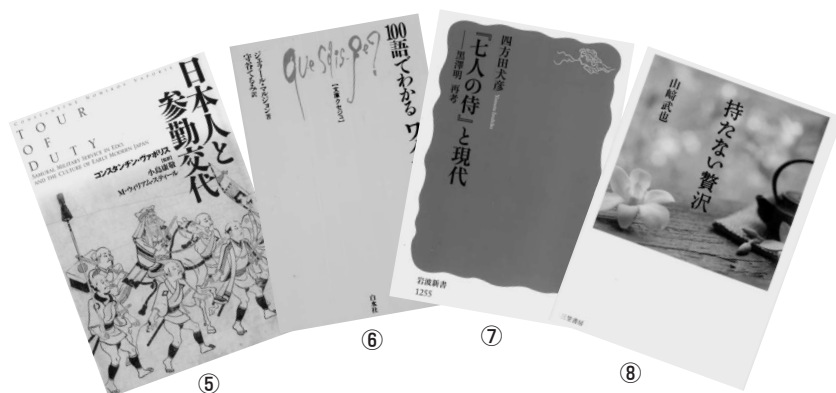
⑦ 四方田犬彦 著
『『七人の侍』と現代:黒澤明再考』

(岩波書店)

インドの超有名俳優アミターブ・バッチャンを初めて見たのは「ショーレイ(炎)」というヒンディー語の映画でした。無法者どもから村を助ける二人組のカッコよさもさることながら、ガッパル・シンの悪党ぶりも何故か楽しいこの映画、どこかで見たような筋書き……。そう、ハリウッドの「荒野の七人」同様、「七人の侍」のリメイクなのです。

日本でのお百姓と武士の構図(=社会階層の差異)が、ハリウッドではメキシコ人とアメリカ人(=民族の差異)に置き換わっていたりと、様々な相違点にリメイクする国の事情が見え隠れします。黒澤オリジナルをどう見るか、どうリメイクするか。世界的に知られたこの作品について、現代の視点からグローバルに考えてみませんか。

778.21-Yom (N.T.)



⑥ ジェラルド・マルジョン 著 守谷てるみ 訳
『100語でわかるワイン』

(白水社)

文庫クセジュの1冊です。ブドウ畑の土質、ブドウの品種、気候、ワインの醸造法、取り扱い方、取引や歴史、味わい方に関する100の用語があいうえお順にまとめられています。用語集としても、また読み物としても十分楽しめるように構成されています。基本的用語からかなり専門的なものについてまでわかりやすく解説されていますので、今まで知らなかったワインについての色々な事を知ることができます。

本書を読めば、ワインがいかに長い年月をかけて大切に、人から人へと技や知識を継承されてきたかがよくわかります。

558.55-Mar (S.S.)

⑧ 山崎武也 著
『持たない贅沢』

(三笠書房)

本書は、長年茶道と禅に親しまれた著者が人生を楽に生きるために「持たない」という観点から、シンプルな生活の重要性を説いています。日本文化に精通した著者ならではの考え方が48項目書かれています。

1項目4ページという短いものですので、読書が苦手な方でも読み切ることができます。真の贅沢とは何なのかをこの本で見つけてください。

欲張りな人は必ず読んでください。きっと人生観が変わりますから。

159-Yam (N.K.)